



農作業メモ

お問い合わせ先

大里農林振興センター
農業支援部
熊谷市久保島1373-1
TEL. 048-526-2210
FAX. 048-526-2494

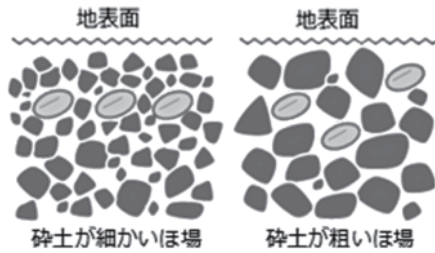
麦類は種期の栽培管理

麦類は酸性土壌と湿害に弱く、特に大麦類が最も弱いです。

この性質を十分に理解し、以下の管理ポイントを踏まえて、は種期の作業を行いましょ。

ほ場準備

- ・ 碎土率（直径2cm以下の土塊の割合）が低いと、発芽が不斉になり、除草剤効果も低下します。
- ・ 作土層は15cmを目標に耕起しましょう。作土が浅いと根域が狭く



なり、生育量が劣ります。

- ・ 地力維持のため、稲わらや堆肥を積極的に施用しましょう。なお、今まで稲わらをすき込み始めなかった場合は、すき込み始め1〜3年目までは分解促進のため、石灰窒素を10aあたり20kg施用しましょう。

酸度矯正

- ・ 酸性に偏った土壌では、葉の黄化や生育抑制等の障害が発生します。
- ・ 事前に土壌診断を行い、必要量の石灰資材を施用しましょう。

表1 pH6.0に要する石灰資材施用量の目安 (10aあたり)

pH	生石灰 アルカリ分80%	苦土石灰 アルカリ分55%
5.5	40kg	60kg
5.0	86kg	130kg

※灰色及び褐色低地土の場合で計算
※主要農作物施肥基準（埼玉県作成）より抜粋

施肥

収量と品質を確保するため、品種に応じて肥料を施用しましょう。

表2 基肥施肥量 (kg/10a)

品種	化成肥料444
さとのそら	60
あやひかり	60
彩の星	50
すずかぜ	50

表3 基肥一発体系の施肥

品種	軽量高窒素麦一発27号
さとのそら	45

は種・除草剤散布

- ・ は種適期は、大麦が11月5日〜20日、小麦が11月10日〜25日です。
- ・ は種作業と除草剤散布はワンセットで行いましょう。は種後の除草剤散布が遅れた場合、雑草が発生することがあります。

排水対策

- ・ は種期が最も湿害を受けやすいため、は種前に施工するのが効果的です。
- ・ ほ場外周とほ場内に明きよを作り、表面排水を促しましょう。
- ・ サブソイラ等による心土や耕盤の破碎や弾丸暗きよを施工し、地下への排水性を良好にしましょう。

- ・ 降雨が予想される場合は、は種直後に除草剤が散布できるか判断して作業しましょう。
- ・ は種後の鎮圧は、除草剤の効果を高めるとともに、土壌水分が低い時の出芽を良好にします。ただし土壌が湿潤な場合は湿害を助長するため、土壌の状態で判断しましょう。

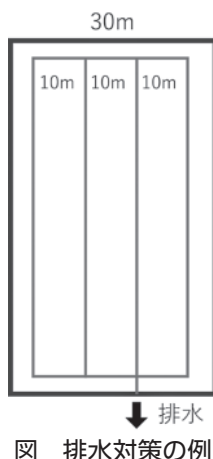


図 排水対策の例

（大里農林振興センター農業支援部）

